

書く・描く・画く

— Write · Draw · Paint

書く、それは自分を表現すること。  
描く、それは心を映すこと。  
画く、それは創造すること。  
私たちがつくる様々なペン先は、使う方々の想いを表現するお手伝いをしています。

人にやさしく

— Quality of Life

私たちのつくる医療機器は、  
安全性・機能性を追求し、  
患者様のQOL (quality of life) のさらなる向上を目指しています。

美しく、より美しく

— Beautiful and Elegant

永きに渡るペン先のモノづくりで積み重ねた技術を生かし  
安全性に配慮した、  
人に優しい製品づくりを心がけています。

2026年3月期

# 決算補足説明資料

2026年5月12日

Au

オーベクス株式会社



証券コード | 3583

01 – 会社概要

02 – 事業内容

03 – 2026年3月期決算概要

04 – 配当について

05 – 長期ビジョン

06 – 第9次中期経営計画

07 – サステナビリティについて

商号	オーベクス株式会社
資本金	19億3,983万円
代表者	代表取締役社長 栗原 則義
創立	1892年（明治25年）12月12日
設立	1893年（明治26年）12月29日
本社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連絡先	TEL：03-6701-3200(代) / FAX：03-6701-3023
事業内容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従業員数	124名（連結 353名） ※2026年3月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

## 真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、 豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。

### 人と社会に正しい貢献を。

当社の創業者である渋沢栄一は、著書である『論語と算盤』の中で「富を成す根源は何かといえば、仁義道德、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。」と述べています。その理念を受け継ぐ当社は、企業の存在価値を「どんなに技術が進歩し、さらに高度な時代になろうとも、人と社会に対する正しい貢献の在り方」と考えています。

### いつの時代も、可能性をあきらめず、まっすぐに。

当社は、明治・大正・昭和・平成と社歴を積み重ねてきました。その間、戦争、度重なる恐慌、大震災、戦火による全工場の焼失、中折帽の斜陽化、石油危機、バブル経済崩壊など幾多の試練に直面してきましたが、先人たちは、誠実さと不屈の精神で活路を切り開いてきました。この誠実さと不屈の精神は、私たちの誇りであり、かけがえのない財産として受け継がれています。

### 「より役立つもの、より優れたもの」を。

当社は、豊かな社会づくりに貢献するため、「より役立つもの、より優れたもの」を常に追求しています。これらを実現するためには、アイデアを生み出す「企画開発」、それを実用化する「技術開発」、安定した製品を生み出す「生産技術」、より品質を高める「品質管理」のどれひとつをとっても欠かせないものであると考えています。「より役立つもの、より優れたもの」を生み出すために長年受け継がれてきた誠実さと不屈の精神で日々モノづくりに取り組んでいます。

### モノづくりを通じて拓がる未来へ。

当社の社名であるAuBEX（オーベクス）は、黎明、曙を意味するフランス語の“AUBE”と可能性、未来の意味合いを持つ“X”とからなる合成語であり、「新しい可能性への曙」「拓がる未来」を意味しています。豊かな社会づくりに貢献する企業を目指し、これからも誠実さと不屈の精神をもって、モノづくりを通じて「人に想いを伝える。人の想いに応える。」企業として、その未来を拓げていきます。

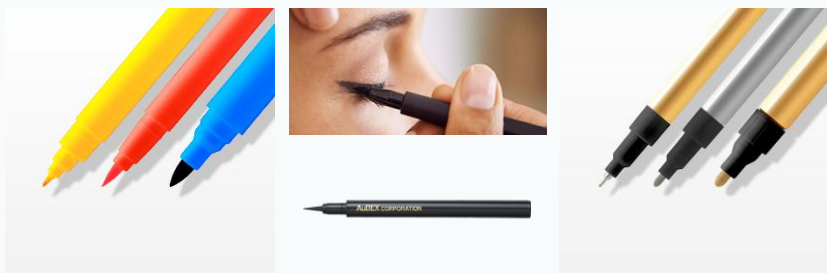
当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。

### テクノ製品事業

売上  
構成比率  
70.4%



サインペン先、マーキング用ペン先などの筆記具関連、アイライナー用ペン先、ネイルケア用ペン先などのコスメチック関連を主力製品として、その他スタイラス用ペン先などのPC周辺関連をはじめ、芳香剤用芯などを取り扱っております。



### メディカル製品事業

売上  
構成比率  
29.6%



自社開発の流量制御チューブを採用した薬液注入器や安全性と利便性を追求した親水性ガイドワイヤーを主力製品として、その他医療用材料を取り扱っております。



## 決算サマリー

連結売上高 0.3%減      営業利益 26.9%減      当期純利益 1.2%減

- 今期より、新中期経営計画（オーベクスビジョン2027）がスタート
- テクノ製品事業の売上はやや鈍化したものの、メディカル製品事業の売上は堅調に推移
- 営業利益は、人件費や原材料費等のコスト増加により減益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用が減少したため前期実績と同水準で着地



## 連結損益計算書（P/L）

- ・売上高は、テクノ製品事業が下期にやや鈍化したものの、メディカル製品事業が堅調に推移し、前期と同水準の6,015百万円。
- ・営業利益は、人件費や原材料費等のコスト増加とテクノ製品事業において高付加価値製品の売上が下期に低調となったため、26.9%減の615百万円。営業利益率は、10.2%となり3.7ポイント減少。
- ・当期純利益は、税金費用が減少したため、前期と同水準の573百万円。

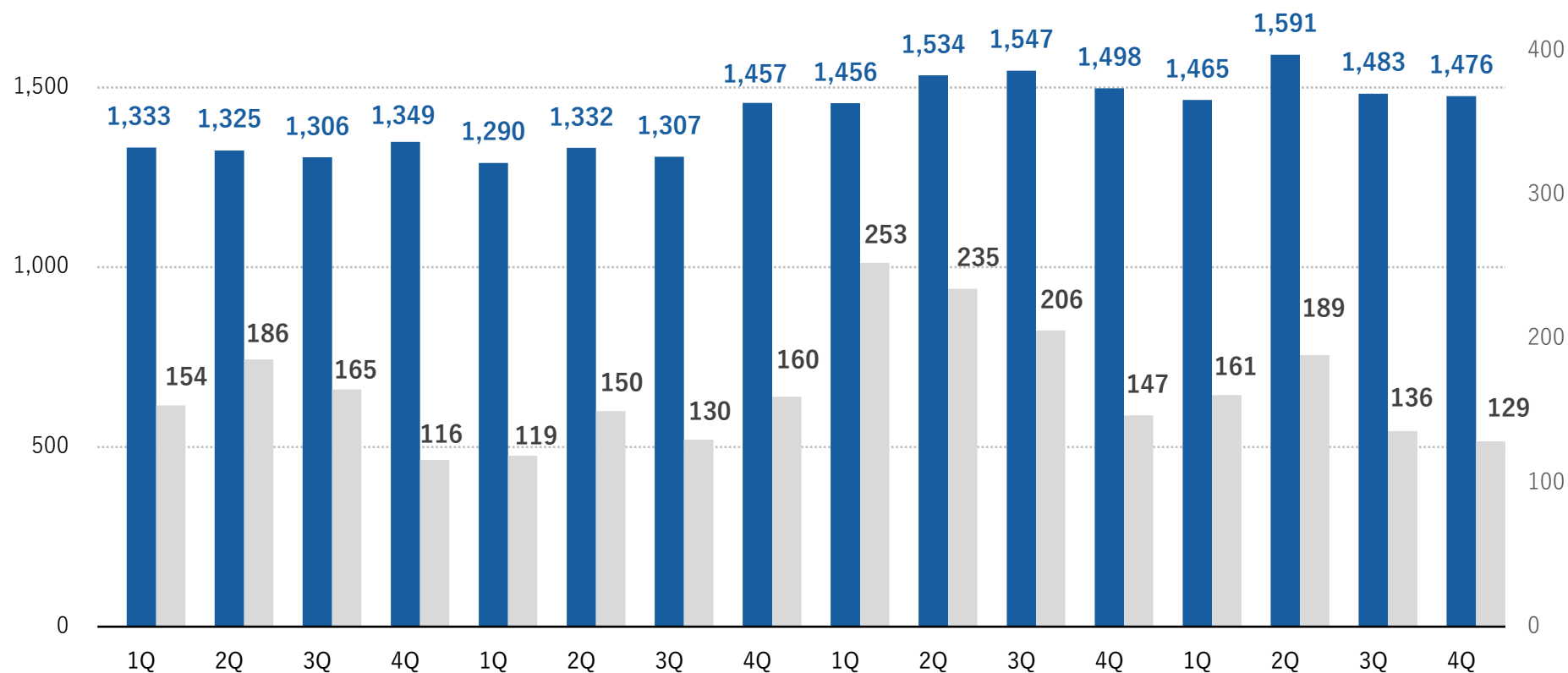
(百万円)

	2026年3月期				前期比
	第1四半期	第2四半期 累計期間	第3四半期 累計期間	通期	
売上高	1,465	3,056	4,540	<b>6,015</b>	△0.3%
営業利益	161	351	487	<b>615</b>	△26.9%
経常利益	148	350	494	<b>630</b>	△22.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	218	354	462	<b>573</b>	△1.2%

## 売上高・営業利益の四半期推移

■ 売上高 ■ 営業利益

(百万円)



2023年3月期

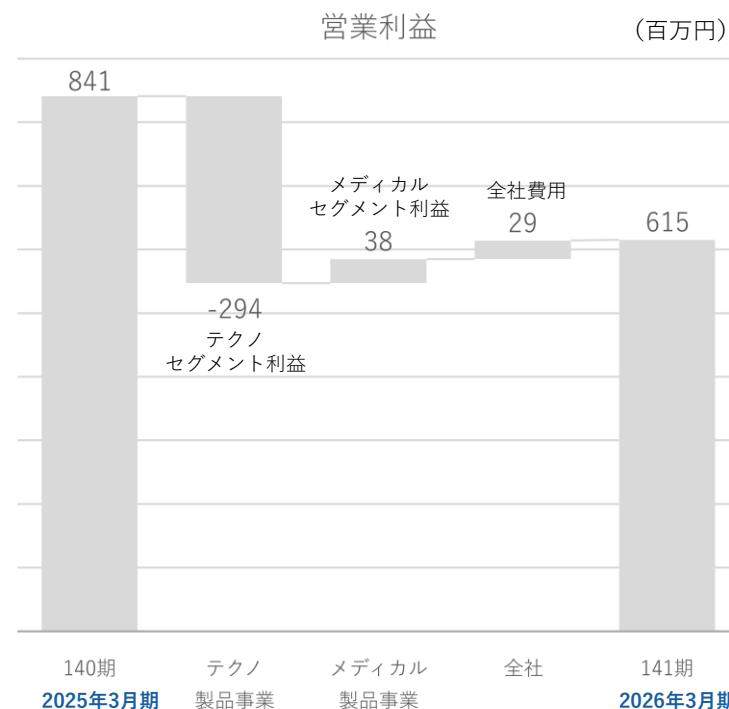
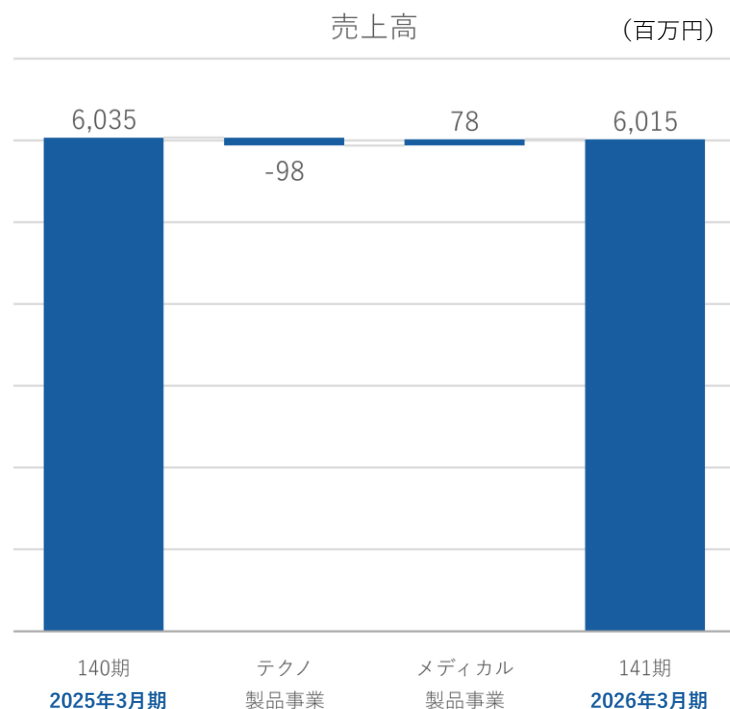
2024年3月期

2025年3月期

2026年3月期

## 売上高・営業利益の増減要因

- ・売上高は、前期と同水準。テクノ製品事業は筆記具用ペン先が下期鈍化。コスメチック用ペン先は復調傾向。メディカル製品事業は堅調に伸長。
- ・営業利益は、テクノセグメントにおけるコスト増加と高付加価値製品の売上が低下したことにより、前期比で225百万円減少。



## セグメント別状況

### テクノ製品事業

好調だったアジア向けの筆記具用ペン先の売上が下期に鈍化。コスメチック用ペン先の売上は復調傾向で推移。人件費や原材料費等のコスト増加と高付加価値製品の売上減少により、減収減益。

### メディカル製品事業

国内外の医療機器展示会や学会などにおける積極的なプロモーション活動の展開により、売上は堅調に推移し、増収増益。

(百万円)

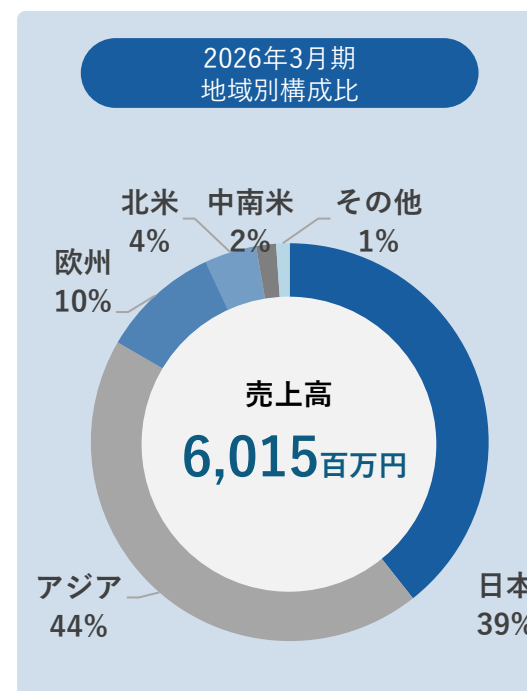
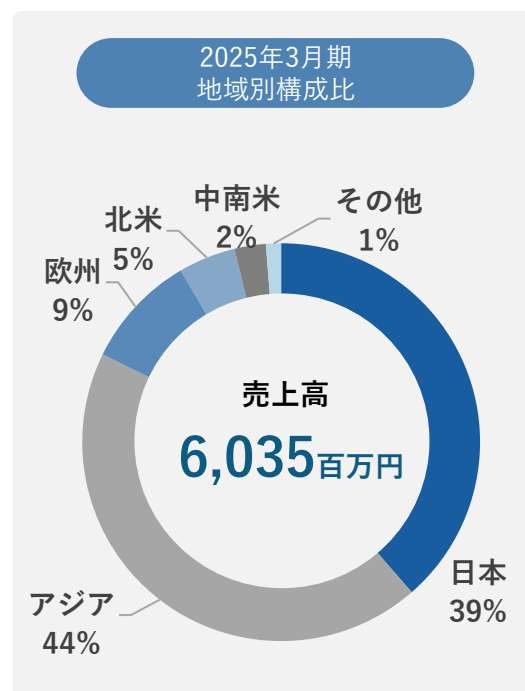
	2025年3月期		2026年3月期		前期比 (%)	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
テクノ製品事業	4,334	1,060	4,236	766	△2.3	△27.7
メディカル製品事業	1,701	123	1,779	161	+4.6	+31.1

## 地域別売上状況

売上高合計は前期と同水準。中国を含むアジア地域の伸びは鈍化。日本国内は堅調に推移。欧州は復調傾向にあるものの、北米、中南米地域は売上低下。

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減率(%)
日本	2,329	2,367	+1.6
アジア	2,635	2,646	+0.4
欧州	560	582	+3.9
北米	281	255	△9.2
中南米	154	97	△37.1
その他	74	66	△10.6
合計	6,035	6,015	△0.3



## キャッシュ・フローの概況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、329百万円の資金の増加。（前期は、637百万円の資金の増加。）
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により443百万円の資金の減少。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により148百万円の資金の減少。
- ・ 現金及び現金同等物の期末残高は、222百万円減少し、2,527百万円。

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減
営業活動によるCF	637	329	△308
投資活動によるCF	△159	△443	△284
財務活動によるCF	△561	△148	+413
現金及び現金同等物の増減額	△90	△222	△132
現金及び現金同等物の期末残高	2,750	2,527	△223

## 連結貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2025年3月期	2026年3月期	増減
流動資産	6,585	6,609	+23
固定資産	3,257	3,555	+298
有形固定資産	2,944	3,146	+202
無形固定資産	33	43	+10
投資その他の資産	279	365	+86
資産合計	9,842	10,165	+322

（百万円）

負債・純資産の部	2025年3月期	2026年3月期	増減
流動負債	1,639	1,358	△280
固定負債	1,495	1,554	+8
負債合計	3,135	2,913	△221
株主資本	6,529	6,975	+446
資本金	1,939	1,939	–
資本剰余金	517	517	0
利益剰余金	4,328	4,801	+472
自己株式	△256	△282	△26
その他の包括利益累計額	178	276	+97
純資産合計	6,707	7,251	+543
負債・純資産合計	9,842	10,165	+322

2026年3月期

自己資本比率  
**71.3%**流動比率  
**486.4%**固定比率  
**49.0%**

## 2027年3月期 業績予想

- 2027年3月期の連結業績予想につきましては、中東情勢による影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから未定としております。中東情勢の影響による原材料価格の高騰や原材料調達の不透明性により、現時点において業績に影響を与える未確定な要素が多く、合理的な数値の算定が困難であるためです。業績予想につきましては、合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

(百万円)

	第140期 2025年3月期 (実績)	第141期 2026年3月期 (実績)	第142期 2027年3月期 (予想)
売上高	6,035	6,015	未定
営業利益	841	615	未定
経常利益	814	630	未定
親会社株主に帰属する 当期純利益	580	573	未定

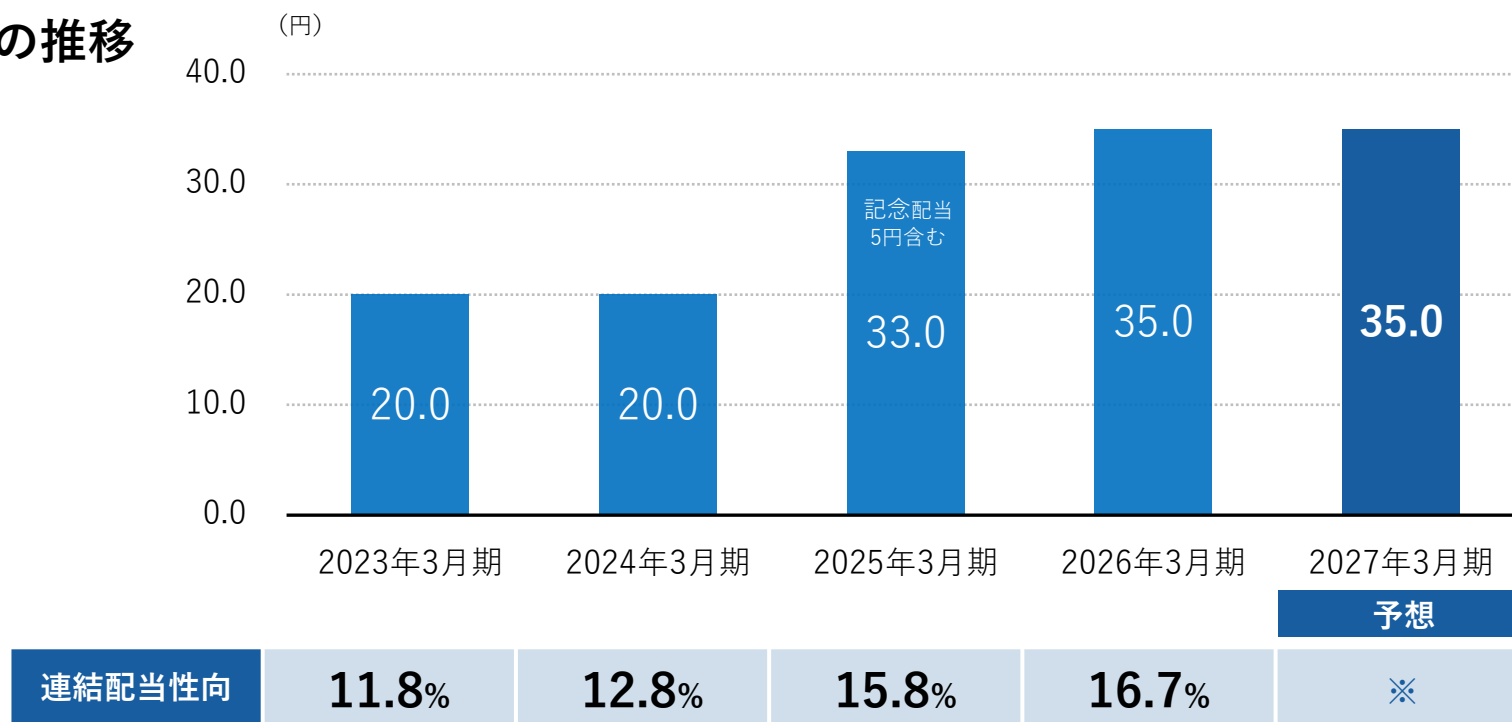
## 配当方針

利益配分に関しましては、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、将来に向けた研究・開発、設備投資等を行うための内部留保の充実を図りつつ、中長期的視野に立って収益に対応した安定配当を行うことを基本方針としております。

## 配当予想

次期（2027年3月期）の配当は、「1株当たり年間配当金 35円」を予定しております。

## 配当金の推移



※2026年5月12日時点において、2027年3月期の業績予想は未定としております。そのため、2027年3月期の予想連結配当性向については記載をしております。

長期ビジョン達成に向けたストーリー

- ・テクノ製品事業は高付加価値製品の開発強化により事業基盤としての収益性の更なる向上を図る。
- ・メディカル製品事業はベセルフューザー®を成長のドライバーとして位置付け収益基盤を強化する。
- ・グループコア技術を結集し、第3の事業を創出する。

2034年度  
/150期

2027年度  
/143期

2024年度  
/140期

第8次中期経営計画（実績）

売上高 60.3億円  
営業利益 8.4億円  
ROE 8.9%

第9次中期経営計画

売上高 70億円  
営業利益 10億円  
ROE 9%以上

第10次～ 中期経営計画

長期ビジョン達成に  
に向けた主要施策

テクノ製品事業

- ・コア技術の深化による高付加価値製品と環境負荷低減製品の開発
- ・増産対応への設備投資
- ・省力化推進による生産効率化
- ・海外拠点の拡充

メディカル製品事業

- ・既存市場拡販と高付加価値製品の新規分野への参入
- ・海外展開準備と新規販路開拓
- ・新工場建設用地取得予定

テクノ製品事業

- ・高成長エリアへの販売強化
- ・高付加価値製品の開発
- ・増産に向けた工場リニューアル

メディカル製品事業

- ・高付加価値製品の企画開発
- ・海外展開の本格化
- ・増産に向けた新工場建設予定

基本方針：ESG経営を推進し、新たな価値創出と持続可能な成長を追求する  
 スローガン：To The Next Stage ～次のステージに向かって～

### 基本戦略

#### 基本戦略-1

##### ■強固な収益基盤の構築

当社の強みである成形技術をさらに進化させ、新たな価値を創出する。

#### 基本戦略-2

##### ■環境負荷低減の推進

温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めるとともに環境配慮型製品の開発、拡販を行う。

#### 基本戦略-3

##### ■成長を支える人財育成

人的資本投資を行うことで、従業員エンゲージメントを高める。ガバナンスを強化し、持続可能な体制を維持する。

#### 最終年度定量目標（2027年度/143期）

##### 売上高

**70億円**

140期比 +16.0%

##### 営業利益

**10億円**

140期比 +18.8%

##### 営業利益率

**14.3%**

140期実績 13.9%

##### ROE

**9%以上**

140期実績 8.9%

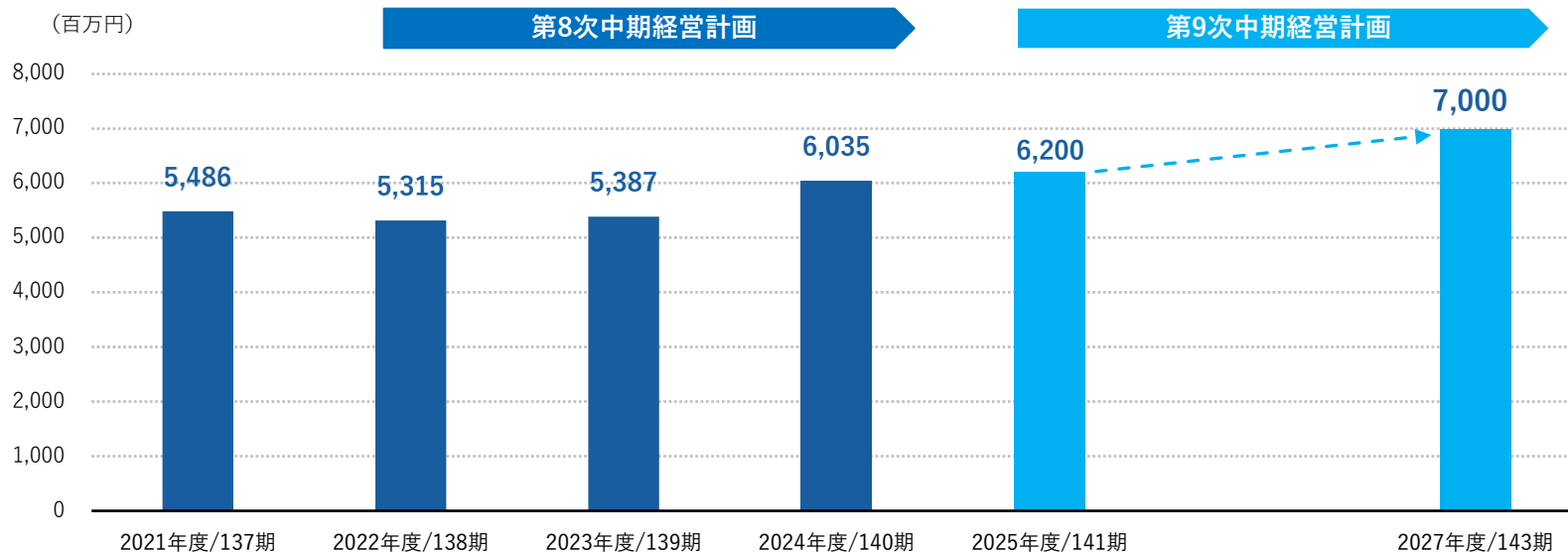
#### 中計3ヶ年合計

##### 設備投資

**15億円以上**

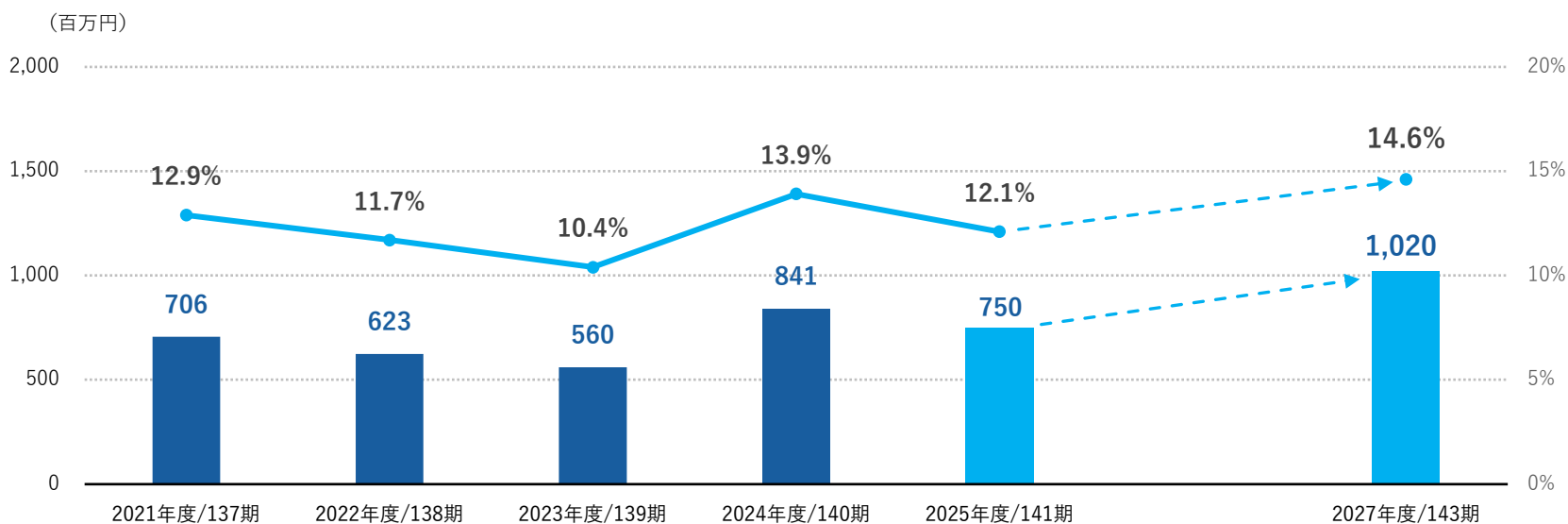
前中計比 +167.8%

売上高  
(百万円)



営業利益  
(百万円)

営業  
利益率  
(%)



## サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道德経済合一説」（仁義道德と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

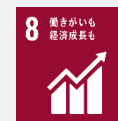
### 環境 Environment

大気汚染対策 廃棄物対策  
環境に配慮した製品開発



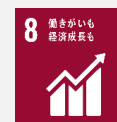
### 社会 Social

働き甲斐のある職場環境 人財育成  
人権の尊重 地域社会への貢献



### ガバナンス Governance

コンプライアンス（法令と社会規範の遵守）  
積極的な情報開示 リスク管理



## 本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

IRに関するお問い合わせ

[https://www.aubex.co.jp/contact\\_request/](https://www.aubex.co.jp/contact_request/)

オーベクス株式会社

コーポレートサイト <https://www.aubex.co.jp/>